全国曹洞宗青年会の活動紹介（九）

大会主任講師・盛田正孝老師

全国曹洞宗青年会「禅文化学林」

全国曹洞宗青年会　広報委員長　田ノ口太悟

今回の全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の活動紹介は、「禅文化学林」です。

この行事は、昭和五十三年十月、大本山總持寺においてサブタイトル「緑蔭禅のつどい中央結集」と銘打たれ開催されたことに始まります。サブタイトルの通り、元々は「緑蔭禅のつどい」が根底にありました。

全曹青は、「大衆教化の接点を求めて」をメインテーマとして設立され、そのテーマの主たる事業が全国各地での「緑蔭禅のつどい」でありました。禅のつどい運動のさらなる充実を目的として行われたのが「禅文化学林」だったのです。時代が進む中、「禅文化学林」は禅のつどいのみならず、様々な形で開催されてきました。

さて、以下では昨年十一月十八日に開催された「第四十二回中国曹洞宗青年会いずも大会併催　令和元年度禅文化学林」の模様をお伝えいたします。

6月21日の雲南教室の様子

中国管区大会に併催という形をとり、島根県松江市の「ホテル一畑」を会場に、「食縁」と題した大会テーマのもと開催された本大会。十二時半からの開講式のあと、十三時半からは講演およびパネルディスカッションが催されました。講演では、大会主任講師である岩手県正法寺山主・盛田正孝老師より、「食を通して生き方を問う」と題したお話がありました。盛田老師からは、「『精進料理』をなぜ『精進料理』と表現するのか。それは『精進料理』がただの食事ではなく、尊い命をいただくため、それにふさわしい生き方をするための修行としての食事、修行に励むことを目的とした食事だからです。あらゆる動物の中で、人間だけが特殊です。人間だけは食物連鎖の中に入っていません。そんな人間だからこそ、『人間だけが食べ方を問われている』のです。そのことを意識して生きることが禅につながる」とお示しがありました。

つづけて、大会講師をお務めの神奈川県常泉寺副住職・折橋大貴師、東京都「こまきしょくどう　鎌倉不識庵」おかみ・藤井小牧氏、広島県普門寺副住職・吉村昇洋師の三師に進行役を交えてパネルディスカッションが行われました。講師の方には先だって精進料理教室をそれぞれ米子教室、出雲教室、雲南教室で開

「五観の偈」をテーマにパネルディスカッションが行われた

催していただいており、その時の体験談も交えながらのお話となりました。

パネルディスカッションは「食事五観の偈」の訳文・解釈を吉村昇洋師に作成していただき、三人の講師方がそれぞれのお考えを述べる、というものでした。時折、進行役の方からユーモアに富んだ質問があり、笑いの溢れる和やかなものとなりました。

以上のように、「禅文化学林」はとても大きな規模を持つものです。その分、事前の準備が大変ですが、やり遂げた時の達成感は言い難いものがあります。来年以降も積極的に開催して参る所存です。

このように「禅文化学林」は、禅の文化を共に学ぶサンガとしての役割を担うとともに、全曹青の設立理念としての「大衆教化の接点を求めて」を体現する事業なのです。

●執筆者プロフィール
広報委員長
田ノ口太悟
福岡県曹洞宗青年会所属
第二十二期から全曹青に参加。広報委員を務める。